

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3671900177		
法人名	医療法人 村山内科		
事業所名	グループホーム陽だまりの家 池田		
所在地	徳島県三好市池田町イケミナミ1949番地		
自己評価作成日	平成25年7月7日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.wam.go.jp/wamapp/hvoka/003hvoka/hvokekka.nsf/aHvokaJissek?OpenAgent&HNO=36030001&OC=01
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会		
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地 県立総合福祉センター3階		
訪問調査日	平成25年9月4日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

くもん学習療法を導入し、認知症の改善に効果をあげている。利用者の暮らしを支援し、認知症の改善のために竹内式アセスメントプランを導入している。地域に開かれたグループホームとして、2か月に1回、地域運営推進会議を開催し意見を取り入れている。同一法人の運営する医療機関の支援を得ており、ターミナルケアも重視して取り組んでいる。事業所内に広い庭があり、利用者とともに畑で野菜等を栽培し、食事にも利用し、収穫を楽しみにしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、民家が建ち並んだ静かな通りの一画に位置している。学習療法を導入して認知症の症状の改善や利用者の暮らしの支援に効果を上げている。事業所内の庭には四季の野菜や花を植え、収穫は利用者の楽しみのひとつとなっている。同一法人の運営する医療機関と連携してターミナルケアの研修を重ねている。事業所として自治会に加入することで、地域の行事や講演会等の情報を入手したり、清掃活動等へ参加したりして、積極的に住民との交流を図っている。地域と協力して災害対策に取り組んでおり、具体的な支援体制の整備に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			陽だまりの家 池田 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念に基づく内容も話し合い、見やすい場所に掲示し、毎朝のミーティング時に唱和し、理念の実現に向けて取り組んでいる。	職員は、毎朝のミーティング時に事業所独自の理念と毎月の目標を話しあうなどして共有し、実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	職員は隣近所、地域の方への毎朝の挨拶や気軽に立ち寄って頂けるような日常的な付き合いができるように努めている。	事業所として自治会に加入し、地域の清掃活動や避難訓練に利用者とともに参加している。また、事業所の庭でパーベークューを行い、近隣住民へ呼びかけて参加を得ている。散歩時等、日ごろから地域住民と挨拶を交わしており、事業所へ気軽に立ち寄ってもらうことのできるような関係づくりに努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	グループホームの見学や電話相談等も受け付けている。ボランティア、地域の方々も気軽に参入できるようにしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	参加者の方々に外部評価の意義を説明し、取組状況について報告や話し合いを行い、意見を参考にしてサービス向上に活かしている。	運営推進会議には、利用者の家族や民生委員、警察官、地域包括支援センター職員等の参加がある。事業所の取り組みや状況報告を行ったり、参加者から地域の情報や防災のアドバイスを得たりしている。出された意見は、サービスの質の向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村主催の講演会への参加等を通していろいろな取り組み、現状を伝えながら質の向上に取り組んでいる。	日ごろから、市担当者と連絡を密にとっている。市主催の講演会や研修会へ積極的に参加している。また、公的な場所を借りて自主的な“何でも会”を開き、テーマを決めて研修を重ねている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束のないケアを職員全員が心がけ周知している。昼間は玄関、居室とも鍵はかけず自由に出入りができるようにしている。夜間は防犯のため施錠している。やむおえない場合は同意書を貰っている。	事業所内で身体拘束のないケアに関する会議を開催するなどして、全職員への周知徹底と共通認識を図っている。有識者から意見を聞く機会を設け、見守りや関わりを多くもつことで、利用者一人ひとりが安心感をもって自由に暮らすことができるよう支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法について勉強会を開き、身体拘束についても検討会を行っている。利用者の自宅や事業所内で虐待が発生しないよう注意し、防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			陽だまりの家 池田 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	地域福祉権利擁護事業や成年後見制度についてパンフレットを見たり、勉強会を行い理解している。必要な人にはそれらを活用できるような体制をとっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書や契約書に入居者の権利、義務が明確に書かれており、その内容を分かりやすく説明し、入居者、家族等の不安、疑問点を尋ね理解、納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議には入居者の家族も参加している。グループホーム内には意見箱を設置し定期的にチェックを行い、意見、苦情等あれば早急に対応している。家族来所時には不満がないか常に声掛けをしている。	職員は、家族の来訪時等には何でも言ってもらえるような雰囲気づくりに留意している。また、家族へアンケート調査を行い、出された意見や要望についてサービス向上委員会で話しあって運営面に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	部会や日常の会話の中で職員の意見や提案を活用し、内容を伝えて検討して反映させるようにしている。	日ごろから、職員間で話しあって意見や提案を出しあい、会議等での機会を通じて代表者へ伝えている。また、事業所が認知症の学習療法で実践モデル施設となっていることから、同業者との交流で気づいたことや提案等についても職員間で話しあい、運営面に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の資格取得に向けた支援を行い、取得後は本人の意向を重視しながら職場内で活かせる労働環境作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	リーダー研修の実施、グループホーム内の勉強会や法人内の勉強会に積極的に出席し、院外研修にも参加して報告会をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会に加入し、情報を得たり研修に参加している。くもん学習療法では実践モデル施設となり他の施設を見学したり意見を聞き、サービスの向上ができる参考にし改善を行った。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			陽だまりの家 池田 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居希望がある場合、事前に見学して頂き本人、家族も面接し検討していただいている。職員と顔なじみになり不安なく入居できるように配慮している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居に至るまでの経緯を聴き、受容し安心して入居して頂いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	当居宅支援事業所では待機者リストを作成しており、必要としている場合、早期に情報が流れるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者は人生の先輩であり、教えてもらう場面がよくある。支援する側という意識を持たずお互いに協働しながら和やかな生活ができるよう場面作りや声掛けをしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者の生活の様子やエピソード等もお伝えし細やかに家族に伝え職員は家族と同じ思いで支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの理美容院へ行ったり、お盆にはお墓参り、地域の行事に参加の際は友人と交流ができるような働きかけをしている。	事業所では、利用者の馴染みの理・美容院の活用を支援している。お盆には家族とともに墓参りや外出、外泊等を楽しむ利用者もいる。同一法人の運営する他サービス事業所の行事へ出掛け、利用者間で継続的に交流することができるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者さんは持てる力を発揮し役割、活動をしている。職員は利用者の関係が円滑になるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			陽だまりの家 池田 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても地域の方として来所され協力してくださっている。また亡くなられた方にはお通夜、告別式に参列させていただいている。		
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	介護計画立案の際、本人を交えての担当者会議を行って、希望、意向を聞き反映している。又、家族に対しても行っている。意思表示のできない方には本人の立場になって考えて行っている。	日ごろから、職員は利用者一人ひとりの思いや希望の把握に努め、担当者会議等の機会に介護計画へ反映している。意志疎通の困難な方には、本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を用いて情報収集し、共有化を図りケアに活用している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1人ひとりのできる事を把握し有する力を発揮できるように働きかけている。また細かく心身状態もスタッフ間で共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	その人の状態をよりよく把握するためパートナー制にしている。ニーズ表はパートナーが作成し、カンファレンスで本人を交えて話し合い計画立案している。利用者主体の暮らしを反映した介護計画を作成している。	利用者がより良く暮らすための必要な支援を行うことができるよう担当制を導入している。ニーズ表を作成し、利用者や家族、関係者を交えて話し合い、利用者主体の暮らしを反映した介護計画の作成に努めている。利用者の心身状況の変化に応じ、そのつど介護計画を見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者の方々の状態の見極め、スタッフ、家族と話し合いケアプランを作成し、それに運動した記録を作成し、いつでも情報開示できるような状態にしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	事業所内では母体病院への行事の参加や外出、外泊の支援等を行い、病院受診の際は職員が同伴し臨機応変、柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			陽だまりの家 池田 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議では警察や町内会の方、民生委員の方などに出席頂き、情報収集や意見交換を行っている。美容院や野菜販売所等の地域資源をなるべく利用している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族が希望するかかりつけ医となっている。受診は本人と家族の希望を聞き家族同伴が不可能な方には職員が同伴している。歯科受診も通院不可能な方には訪問診療をとってもらっている。	本人や家族の希望するかかりつけ医の受診を支援している。家族の付き添いによる受診が困難な場合には職員が代行している。歯科等の専門医の受診が困難な利用者には訪問診療を行っている。定期的に歯科衛生士による口腔ケアも実施している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の健康状態については、異常の早期発見と報告を母体病院の看護師に常に連絡を取り合い指導をいただいている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	情報提供を行い、看護、介護が継続実施ができやすいよう情報交換を行っている。又、入院した場合には頻りに訪問し、入院先の病棟看護師や医療連携室職員と情報交換をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居者、家族の方々が終末期医療を受けられるよう終末期の対応方針を家族やかかりつけ医と話し合い意思確認書をとっている。又、状態の変化があればその都度説明している。	入居時の段階で、重度化や終末期のあり方に関する説明や相談を行っている。本人や家族の希望を踏まえたうえで意志確認書を得ている。利用者の状況変化に応じて、家族や関係者間で話し合いを重ね、方針を共有してチームで支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時は母体法人に連絡を取り、指示を仰いでいる。消防署の方にきていただき救命救急等の学習や訓練を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回防災訓練を実施し災害対策委員会、地域の自主防災組織の訓練を地域の方々と行っている。地域の防災訓練に入居者の方も参加している。	年2回、火災や地震を想定した避難訓練を実施している。地域の自主防災組織に加入し、訓練には利用者とともに参加している。第二避難所まで担架と車いすを利用して避難するなど、実践的な取り組みを行っている。災害時の地域との協力体制も構築している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			陽だまりの家 池田 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊厳を守り、入居者ひとりひとりに合わせた声掛け、誘導を行い、さりげなく介助をし、プライバシーを損ねることがないようにしている。	利用者の尊厳を守り、一人ひとりの誇りやプライバシーに配慮した支援に努めている。個人情報については、責任ある取り扱いと管理を徹底している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定を尊重しており、希望や意見を表現できるようコミュニケーションに心がけている。又、家族の方に意見や希望を多く聞けるよう努力している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の希望や状態などに合わせて、1人ひとりのペースを保てるよう努力している。「~したい」という希望は出来る限り実現している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者の方が好みで衣類や整髪を選び、希望や好み表現できない方には職員が選ばせてもらい、おしゃれに配慮している。定期的に美容院の方に来てもらったり、行きつけの美容院に行かれることもある。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の方の力を極め、自信がつくようなさりげないサポートをし、一緒に準備や食事、片付けをしている。	職員は、食事の準備や後片づけなど、利用者の力を見守り、ともに行うことで楽しみをもつことができるよう食事の支援を行っている。管理栄養士の訪問があり、利用者の咀嚼状況を確認してもらうなどして献立表に反映している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	母体病院の栄養士と相談し、カロリーや栄養バランス、水分量が確保できるよう1人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。水分量は一日1300ml以上目標に摂取状況をチェックしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを実施し、一人ひとりの口腔状態や力を把握し定期的に歯科医、衛生士に訪問してもらいチェックしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			陽だまりの家 池田 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者一人ひとりの排泄パターンをつかみ尿意、便意のサインをキャッチし、誘導を行いトイレで排泄する当たり前の生活を大切に実施している。	職員は、利用者一人ひとりの排泄パターンの把握に努めている。尿意等のサインを察知し、さりげなく誘導することで、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の原因や影響を理解し、予防対策のために牛乳、乳製品や繊維食品、水分摂取等、飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入居者や家族の希望を聞き、時間、回数等意向に沿って支援している。入浴を拒否される方に対しては時間を置いての声掛け等で対応している。	利用者の希望に応じて入浴することができるよう支援している。入浴を拒む利用者には、時間をおいたり、声かけなどで気分を変える工夫を行ったりして、一人ひとりの気持ちや習慣に応じ支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の日頃の生活リズムを整えるよう配慮し、睡眠障害の有無をチェックするとともに日中は散歩やリビング等でのレクリエーション活動を取り入れたりしている。また体調にあわせ休息もできるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容を理解し用法、用量、副作用などいつでも見やすくしている。服薬確認を行い服用薬バイタルチェック表にも貼付し、見やすく誤薬がないよう確認を行い安全管理をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	調理、食品の買い物、畑仕事や水やり、洗濯物干し等ひとりひとりの生活歴や力量を活かした役割をしていただき、張り合いや楽しみ等をもっていただいている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物が出来る入居者の方は近隣へ買い物やお墓参り等家族と一緒に外出されたりしている。	日ごろから、利用者は近隣へ買い物や散歩に出かけている。同一法人の運営する他サービス事業所の行事へ出かけ、馴染みの人との交流を楽しんでいる。また、家族とともに外出や外食を行うなど、一人ひとりにあった外出支援に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			陽だまりの家 池田 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者一人ひとりの力を把握している。買い物や美容院に行ったときに、理解ができる利用者の方には自分でお金を支払っていただき、出納帳に記入し家族に目を通していただいで確認のサインをもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけられる方は電話をしたり、かけられない方には取り次ぎをしたり手紙も書いて発送できるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間は台所に面しており、調理する音、匂いなど五感を刺激している。入居者の方に行事の習慣を教えていただき、しょうぶ湯、七夕、冬至にはゆず湯など季節感を味わっていただけるようにしている。	事業所の居間が台所に面しているため、調理する音や匂いなどを感じることができる。利用者は、垣根のゴーヤやコスモスの花を眺めたり、触れたりして、季節を感じつつそれぞれの場所でゆったりと過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ダイニングが主であるが、ソファも置き、自由に過ごせるように場所を確保している。又、庭にベンチを置き、くつろげるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人さんや家族と相談し、使い慣れたものや好みの物を持ってきていただき使用し、その人らしく居心地よく過ごせるような配慮をしている。	利用者や家族と話しあい、使い慣れたテレビや調度品を持ち込んでもらっている。居室に仏壇を持ち込んでいる利用者もあり、居心地良く過ごすことができるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者の身体機能に合わせた手すりをつけ、洗面台の高さもちょうど良い高さになっている。過剰な危険防止を行わず、安全確保と自立への配慮をしている。		